

一般質問



高田 康子

(新風会)



三島駅南口東街区再開発事業



本間 雄次郎

(覚悟の会)



Q ふるさと納税で、三島の歴史・文化の資源を活用して、三島暦やプレゼント型返礼品にできないか。

A 三島暦をふるさと納税返礼品として取扱うことは、三島の歴史・文化を発信するうえで意義を持つものと考えており、実現に向け協議を進めていく。また、プレゼント型返礼品についても、今後さらに充実を図っていきたい。



Q 建設されるホテルの必要性の判断のため、三島駅西街区の東急ホテルの事業効果確認をすべきと考える。どのようなチェックをしているか。

A 市内の宿泊客数は、3年連続で過去最多を更新する見込みで、宿泊需要は好調を維持しており、西街区においても客室稼働率は好調と捉えている。広域観光交流拠点として、ツーリストラウンジも設置されており、公募時の要求水準を一つ一つチェックしている。

Q 本市はひとり親家庭割合が全国平均を下回っているものの、父母の離婚を経験した子は少なくない。その数をどのように捉えているか。

A 父母の離婚を経験したことの正確な人数は把握していない。しかし、離婚に伴う環境の変化に直面することで経済的、精神的な困難を抱える可能性が高くなることが推察されるため、子どもの利益を最優先する視点を持ち、寄り添った支援が必要であると考えている。



沈 久美

(改革みしま)



Q 父母の離婚に直面した子どもの数の捉え方はいるものの、父母の離婚を経験した子は少なくない。その数をどのように捉えているか。

A 離婚後の共同親権や親子交流を含む改正民法施行準備として、「子どもまんなか」についての市独自の「子どもまんなか」資料を作成することは、親自身が大人ファーストになりがちな考え方や気持ちを整理し、子どもを第一に考え、子どもの心理的なケア等を考えるきっかけにつながると考えられるため前向きに検討していきたい。

Q 放課後児童クラブの利便性の向上と環境改善
A 条件の緩和については、待機児童の発生につながることのないよう慎重に検討していく必要があるが、施設の拡充や一層の支援員確保を図りつつ、他市町の状況を参考にしたり綿密なシミュレーションを行ったりするなど、調査・研究を進めていく。

Q 一クラづ40人の定員では、夏期や雨の日の居場所として適切な環境とは言えない。学校の図書室や体育館等を空室時に利用できないか。
A 現在においても体育館を放課後児童クラブの児童が利用している学校はあるが、本市の放課後児童クラブが一層子どもたちの快適な居場所となるよう、引き続き、学校の協力を得ながら、図書室や体育館のさらなる利用拡大を図っていく。

Q 本年9月より導入した高齢者が自宅を担保にすれば無利子で耐震化できる新制度について、対象戸数を踏まえた導入の意義を伺う。

A 耐震改修利子補給制度の「リバース・60」は制度である。令和7年度末の耐震性のない木造住宅は約二千戸と推計され、これらの方々の制度利用が期待される。



Q 本市はひとり親家庭割合が全国平均を下回っているものの、父母の離婚を経験した子は少なくない。その数をどのように捉えているか。

A 地域連携による持続可能なラジオ体操の実施は躍的な発展につながるまちづくりの好機と捉えている。現在、跡地の利活用を軸とビジョンの策定準備を進めしており、さらなるウォーカブルで多くの方々でにぎわう魅力的なまちなか、中心市街地の活性化につなげていく。

Q 市長、本当に市庁舎南一日町で良いのですか
A 新庁舎整備は本市の飛躍的な発展につながるまちづくりの好機と捉えている。現在、跡地の利活用を軸とビジョンの策定準備を進められており、さらなるウォーカブルで多くの方々でにぎわう魅力的なまちなか、中心市街地の活性化につなげていく。

Q 市役所の駐車場はいつ行っても混んでいるという10年前の話を今でも耳にする。年に数回の混雑時に周辺のミニ駐車場の活用ができないか。
A 本庁舎63台分の駐車場は週明けや週末、年度末、年度始などの混雑時等において、近隣のミニ駐車場の場所や利用方法の案内等が煩雑となるため提携、契約することは難しい。そのため、これまで同様に市営中央駐車場を案内し、利用時間分の免除で対応する。

Q 三島市総合計画の未来図再構築の可能性は